

滝野川西地区教育環境整備協議会（会議の概要）

（仮称）滝野川西地区ブロック協議会（第1回）

■平成15年8月26日

■滝野川東区民センター

■次第■

1. あいさつ
2. 学校適正規模等審議会答申報告
3. （仮称）ブロック協議会の基本的な考え方
4. 滝野川西地区の現状
5. 今後の運営について

滝野川西地区教育環境整備協議会・幹事会（第1回）

■平成15年10月27日

■滝野川西地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. （仮称）ブロック協議会設置要綱について
3. 座長選出
4. 幹事会の進め方について

■発言要旨とまとめ■

○設置要綱について

- ・ 名称を「滝野川西地区教育環境整備協議会」とする。

○代理出席について

- ・ 幹事会への代理出席は認めない。
- ・ 協議会（全体会）への代理出席は認める。

○座長選出について

- 座長1名、副座長2名とする。
- 座長は町会・自治会関係者が適切である。
- 今回は座長選任に至らなかったが、引き続き選任に向け努力する。

○意見

- 代理出席は、話の流れがつかめないのが難しいのではないかと。
- 全体会で採決する可能性はあるのか？（→事務局回答：できれば総意での議決が望ましい。）

滝野川西地区教育環境整備協議会・幹事会(第2回)

■平成15年12月8日

■滝野川東地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第1回幹事会のまとめ
3. 座長、副座長の選出
4. 今後の検討に向けて
5. その他

■発言要旨とまとめ■

○ 座長・副座長の選出について

- 座長：鈴木伸(西ヶ原西谷戸自治会会長)を選任。
- 副座長：野尻光昭(滝野川新西自治会会長)、中島國勝(西大原自治会会長)を選任。

○ 主な発言

- 新しい場所に新しい校舎を建築することは検討しないのか？
- (事務局発言)東京外国語大学跡地は、議会で防災公園等とすることとされた。それ以外の土地があれば、検討に値するが、現状では無い。
- 東京外国語大学跡地利用について、地元は防災公園を希望した。
- 1校案は現実的に不可能ではないか？

- (事務局発言)面積としては、各校の敷地でできないということではない。
- 都立池袋商業高校跡地の現状は？ 現在決まっていらないようだが。
- (事務局発言)3校の中でもっとも広い校地である紅葉中学校に隣接しており、利活用は未定と聞いている。
- 都立王子工業高校がどうにかなればと思うが、10年先を見てはどうか？
- (事務局発言)位置には魅力があるが、都立高校改革のなかで存続するらしい。
- もともと飛鳥中創立時は、都立王子工業高校校地を借りた。
- 2校案にした場合、学区域の変更を考えているのか？
- (事務局発言)現在の学区域をもとに検討を進めていただくが、実際、適正配置を実施する際には改めて学区域が課題になる。
- 中学校の適正規模は何人くらいなのか？ 親のニーズに応える規模で新しい学校をつくるなら、親は喜んで進めるだろう。
- (事務局発言)適正規模等審議会第2次答申では、中学校の適正規模を9～15学級としている。校長先生は18学級とも言っている。
- 既存施設を全部更地にして新築するのか、既存施設を活かすのか？
- (事務局発言)校地の制約として、飛鳥中は埋蔵文化財の関係で工事ができるかわからない。紅葉中、滝野川中には制約はない。前提としては新しい学校を、と考えている。現校舎では、紅葉中が昭和40年築、飛鳥中が昭和41年築、滝野川中は昭和34年築で既に40年を越えている。
- 現実的には2校案を、と考えているか？ 校舎と校庭は同じ敷地でなければいけないか？
- (事務局発言)メリット・デメリットを考えて、望ましい形をまとめていただきたい。校舎と運動場は、隣接または近ければ、別でも可能である。
- 1校案を採れば、各校痛み分けになる。10年前は飛鳥中でも700人の生徒がいたので、説得しやすい。ただ、1校案の具体地がなく、現実的には2校案になるのでは。
- (事務局発言)これからは従来型の教育ではなくなる。何を建てるかという議論も必要であり、1校案・2校案の長所・短所を考えていただきたい。
- 1校案は、地域の中央でないと不可能だ。
- 地域性と学区域の問題では、地域外の学校に行くということについて、どう考えているか？ 中学に入ると我が子をいい教育にという熱が上がり、線引きしても意味がないということになる。
- (事務局発言)保護者にとっては選択肢が広がっている。公教育の役割・新しい学校づくり・ソフトに対応できるハード、をつくることが目標。
- 資料のデータについて、実態に近いものとなっているか？
- (事務局発言)推計値には、私立校への流出、公立間の移動など、現状の傾向を盛り込んである。
- 教育内容を良くすれば、数が戻ってくる部分がある。良い学校をつくることを目標にすることが大切だ。
- 保護者は進路に関心を持つ傾向がある。

- 今の保護者は、あっさり地域外の学校に通わせる。地域で良い学校づくりを応援していかなければならず、それには区のサポートが必要。地域を考えると、明治通りを挟んで、両側に1校ずつがいいのでは。
- 1校案では、地域が広がりすぎる。2校案の紅葉中+滝野川中となると、飛鳥中の校舎はそのままということか？
- (事務局発言)順位として統合校を優先することになる。
- 1校案は現実的に不可能だ。2校案は現実的にアプローチしやすい。
- 滝野川中PTAとしては、今は何もしないでくれ、との意見が強い。
- 私もクギを差されてきた。しかし、これからのことを考えたとき、そうは言っていない。来年そうなる訳ではないし、どこかで乗り越えなければならない問題だ。
- 現状を維持できればいいが、生徒数が減少していく、という数字がでてくる。必ずどこかで変わる、良く変わるのならいい。
- 1校案は、校舎・校庭分離ならば、考えることができる。
- 現状について各校長の意見を伺いたい、自校の特色・状況などについて。議論を切り上げるのはまだ早い。
- 中学生の現状として、昔の50人学級の時よりも、現在の40人の方が手が掛かる、指示しないとやらない。
- 選択教科の拡大・少人数授業導入・特別支援教育を視野に入れると、多目的スペースや教室数が必要だ。広い校庭を生徒に提供したい。

○次回に向けて

- (事務局説明)検討シートを送るので、1校案・2校案のメリット・デメリットを記入して欲しい。各幹事の意見をまとめて次回資料とします。

滝野川西地区教育環境整備協議会・幹事会(第3回)

■平成16年1月27日

■滝野川西地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第2回幹事会のまとめ
3. 1校案、2校案の比較検討今後の検討に向けて
4. その他

■発言要旨■

- (1校案について)通学距離が2.6kmとなると、自転車通学を許可せざるを得ないが、交通事故の増加が懸念される。1年生はまだ体も弱いので、荷物が大きくて2.6kmの通学は負担だと思ふ。
- (2校案について)滝野川第三小の学区域は明治通りをまたいでいて、小学生でも渡っている。それほど配慮しなくてもいいのではないか。町会・自治会の中で学校が分かされると、連絡・町会のまとまりの点で難がある、なるべく町会のまとまりで考えてはどうか。学区域から反対が起こるのではないか。
- 将来的には適正規模は重要。しかし、部活動は6時30分まで行い、冬は暗くなっていて、それから長距離を帰るのは心配だ。
- そのとおりだが、実態として飛鳥中は区域外就学が多い。地域の支えも重要だが、区域外就学を拒むことは出来ない。その兼ね合いが難しい。3校を1校にするには、地域の中央に用地がないのが問題。中学校は色々な子と出会うことが重要。新町中は滝野川第四小の子のみが進学するが、多くの出会いを求めて、私立中や他の区立中に行っている。それが今の保護者のニーズ。そういうことを頭に入れないと。現実的に3校併存は無理。これからの中学生がこういう中学校が出来て良かったと思えるようにしなければ。そうでないと北区の教育力が落ち、文京区・荒川区に流れるだろう、先延ばしする余裕はない。区境の地域に危機感がある。
- 1月23日の6年生への説明会に、区域外からも参加している。昨年と今年、今年と来年では傾向が違う、保護者の考えが端的にでてきた。現1年生は3学級と予測できたのだが、何故か今年は難しい。モタモタしていると区立中から離れていく様に思う。
- 地域に愛されていても、他区との競争にさらされてきた。統合にはプラスマイナスあるが、このままでいいのか、北区の公立中が浸食されている、そういう観点から見ないといけない。小学校においては地域性は重要なことだが、中学校においては地域のことはある程度我慢しないと。
- 学区域外から入ってくる保護者は、地域の愛着よりもどの学校が良いのかで選んでいる。魅力があれば流れる傾向があるということで、3校を1校に統合し、魅力があれば流れてくるし、魅力なければ流れていってしまう。
- 学校の内情として言うと、保護者の動向として、部活動の存在は大きい。昨年サッカー部がないという理由で私立へ行った生徒が多い。保護者会の自由記載欄で進学先の情報提供を多く求められた。
- 保護者・子どものニーズに部活動のウエイトが大きい、そのためには明治通りも渡るし地域に根ざすことも越える。教育内容・進路にニーズは落ち着くのであって、地域の人のとらえ方とは違う。
- 学区域は新たな線引きをするのか？
- (事務局発言)通学区域については、維持することを前提としている。
- 東京都は望ましい中学校の規模を出しているか？
- (事務局発言)東京都は数字では出していない。北区では1学年3~5学級を適正規模としている。他地区の協議の中では1校18学級が望ましいのではないかと、との意見もある。
- 3校一緒になっても規模はたかが知れている。

- 私が教師の時は、1学年8クラスあったが、4クラスしか見られなかった。他のクラスの生徒はわかりづらかった。個人的に4~5クラスが良いと思う。
- 大き過ぎはだめ、18クラスは多いと思う。1学年5クラスくらいが理想だが、それすら北区にはない、浮間中が12クラスで最大規模。子どもの絶対数が減少する中で、来年度の予想では各中学校のほとんどが減少している。
- 行政側が学校数を少なくしろと言っているだけにとられるのではないか。私立にどれ位流れているか示せばどういう工夫ができるというポイントが見つかるのではないか。生徒同士が切磋琢磨し・落ち着いた教育を行うのに5クラスは必要では。
- 生徒数が減ると、教師数が少なくなる、常勤で教師を充てるには生徒数が必要。
- 平成20年には、1校にしても1学年5クラスになる。適正規模の維持がやっと。通学距離に配慮して2校にすると、すぐ小規模化するのでは。
- 地域性を考慮しなければ学校経営は成り立たない。そういう意味で2校案も考えられる。後はソフトの部分で、部活動・教科指導で努力してくい止めることを考えては。
- 文京区へ行った子の保護者の意見を聞いてみたい。
- 文京区のイメージと実際とは離れている。
- 伝え聞きが一人歩きしている。それは私立も同じで、それに頼ると成功も失敗もある、それに惹かれる親を魅力ある教育の中身で引き戻さなくてはならない。
- 一流校を出れば幸せになれる、という考えに親がしがみついているのでは。
- 私立に行っていた人は、地域の会合には入りづらい。その点で公立学校には魅力がある。
- 地元で家を継ぐ人は公立中に進んでいないと頼りにされない面がある。しかし、外部から転入してくる人の方が多く、そういう人は他に求めるものがあれば地元以外の学校を選ぶ。
- 行政側のプレゼンが下手。若い保護者に対して教育委員会が主導して魅力を訴えるなど、センス良くやればいい。現状は口コミで、学校だけに任せている。
- 規模を取れば1校案、通学距離を取れば2校案、どちらに重きを置くか？
- 戦後、北区の新制中学校は9校で設立した。その9校に戻るくらいのつもりでない。
- (事務局発言)1学年3~5学級の適正規模を維持するためには、平成20年には大まかに言って12~13校にはなる。
- 教育は地域住民にとっても関心が高い。北区が公教育を充実させれば、住民が移ってくる。若い人が所帯を持って住むには、教育の魅力は大きい。子どもたちが切磋琢磨出来る環境は地域にも有益である。
- (事務局発言)人口の傾向については前回示したが、次回、区立以外の学校への就学割合を示したい。平成20年を越えても暫くは5学級を維持すると見ている。飛鳥中・田端中・新町中は、地域の位置関係から私立・他区公立への就学が多い。
- 保護者が何故公立中に魅力を感じないのか？ 学習時間の問題は、現実的に難しいが、公立もここまでやるかと思われねば歯止めにならない。学力向上・進学先が大きなニーズだけに、そこまで手を付けなければならないのではないか。
- 2校案とすると、統合校は改築されると聞いたが、1校残った方はどうなる？
- (事務局発言)残った方は、出来るだけ手は加えたいが、財政的には厳しい。

- 2校が統合して1校、そして残った1校ならば、通学可能ならば生徒は新校に来るだろう。
- 残った方が近いのならばそちらへ行くのではないか？ 施設のウエイトが大きいので、片方に寄るのはうなずける。
- 富士見中と加賀中は、校舎だけ見たら加賀中へ行くだろう。
- 北区の公立中はしっかりしていて、21世紀の教育をしているというプレゼンをしてはどうか。実際にしっかりしていると思う。
- 台東区では土曜日に公開授業をしている。北区は積極的に見直すとか、何かソフトの面で手を打ってはどうか。
- 北区内の中学校で土曜日に校長などで補習していると聞いた。
- (事務局発言)補習をするか、授業の中身を濃くするか、校長の間でも議論が分かれるところだと思う。補習の状況については現在調査している。
- 外語大跡地と学校を一体化できないものか？
- (事務局発言)既に他の案が決定している。
- 醸造試験所はどうか？
- (事務局発言)調査する。
- どこにするかは考えなければならないが、地図を見ると2校案になる。

■次回の予定■

次回は全体会を開催する。

滝野川西地区教育環境整備協議会(第2回)

■平成16年3月3日

■滝野川東ふれあい館第一ホールA

■次第■

1. あいさつ
2. 検討経過について
3. その他

■発言要旨■

- 醸造試験所跡地公園についての資料があるが、ここに学校を建てる余地があるのか。
- (事務局発言)今現在どのようになっているのか、幹事会で情報提供を求められたので報告をした。可能性についてということではない。
- 外語大跡地など、現在の中学校地以外の土地はどうかという話の中で出た場所である。現実には無理、と受け止めている。

- 3校から1校に統合するのは難しいということか。
- 3校が痛みを分け合うという点では検討に値するが、外語大跡地や醸造試験所跡地公園がだめならば、3校を1校に統合するのは無理。ならば2校案で、と検討することになる。3校存置は、国立・私立への流出・出生減などで生徒数の減少をまねく。生徒数がないと、部活動などが充実できない。若い保護者のニーズに応えることや、しっかりした教育・部活動で切磋琢磨する環境が必要だ。このままでは単学級・2学級になり、立ち行かなくなるのではないかと危機感を感じる。北区は細長い形状なので隣接する区が多く、私立だけでなく他区の公立へ流れる。地域だけの視点ではだめ。教育内容・部活動でしっかりしてもらっても、学校の規模が小さくなっては太刀打ちできない面があることを、中学校の保護者は感じている。
- たとえ飛鳥中がなくなったとしても、素晴らしい学校が出来るのなら構わない。石を投げられたとしても、地域に学校を残したいのならば腹をくくらないとならない。他区と競合できなくなる。仮に学校がなくなるとなれば悲しいが、そういう危機感がある。
- 1校案はない、ということか。
- (事務局発言)面積的には、既存の3校のどこにでも可能だと考える。
- これから何回かけて結論を出すのか。統廃合は、昔の形に戻るのだと感じた。個人的には滝野川中学校卒であり、残して欲しいと思うが。飛鳥中学校の人数が多すぎて、滝野川中学校が出来た。それまでは飛鳥中学校の場所へ行っていた。2校案とすると、滝野川中学校がなくなる懸念がある。代替地がないとすれば、どちらかに集めて、教育方針を定めては。近所でも私立中に進む子が多いし、近所の私立校も女子校だった学校が共学になっている、すみやかに結論を出して、教育方針を出して欲しい。教員数が減ると、教員への負担が大きくなるのではないかと、教員が仕事を満足に出来るようにして欲しい。
- 1校案と2校案どちらか。子どもの数が減っている、私立中へ流出すると、生徒数が減る。良い教育には1校案が理想だが、外語大跡地・試験所跡地公園がだめならば、1校案をとった場合の対策はあるのか。
- (事務局発言)新たな土地は用意していない。
- 校長の立場として、教育の中身について言います。1校案は理想的、平成20年度の推計値では19学級あり、新しい教育に対して、教員数から生徒の期待に応えられる。2校案Aにある紅葉中学校と滝野川中学校が統合すると、12学級になる。対応出来なくはないが、学級減が起きる心配があり、ちょっと十分ではないところ。平成20年度推計値での飛鳥中学校は9学級、不可能ではないがもう少し欲しい。新しい教育では、今まで全員に等しくやってきた授業を、子どものニーズに合うように選択教科、たとえばもっと進んだ学習をしたい、もっと基礎の学習をしたい、ということに応えるには、どうしても教員数が必要。少ないと広げるに広げられない。本校では3年生の選択教科は25個あり、子どもはそこから選ぶ。教員数は1学年3クラスで10名が必要となる。子どものニーズに応えるために、教員配置に必要な生徒数がある。1校案が理想だが、場所がない。
- 1校案が無理ならば、1校案はなし、としないと。例えば明治通りを挟んで左右に1校ずつとか決めないと、決まらないだろうと思う。3校を減らさないといけないのなら、2校案で考えた方がいいのではないかと。

- 現実問題として、飛鳥中学校は滝野川小学校・西ヶ原小学校の子が進学するところだが、滝野川第五小学校の子が、堀船中学校よりも飛鳥中学校を選んで来ている。個人的にはどうかと思うが、保護者は私立中以外に公立中でも選択している。他区にも流れているし、地域への愛着が減っていると感じる。もともと滝野川小学校は私立中へ行く子が多い。
- (事務局発言) 1校案が現実的でないならば2校案を進めるべきだ、というご意見をいただいたと受け止めている。この点を幹事会で議論したい。

○今回の協議会を受けて、「協議会だより」を発行する。

滝野川西地区教育環境整備協議会・幹事会(第4回)

■平成16年5月20日

■滝野川東ふれあい館

■次第■

1. あいさつ
2. 委員自己紹介
3. 第2回協議会のまとめ
4. 望ましい学校配置について
5. その他

■発言要旨■

- 平成20年までのシミュレーションは示されているが、平成30年にはどうなるのかというところがある。もう少し長いスパンで見てもどうか。
- (事務局発言) 現時点では、児童生徒数シミュレーションは平成20年までしかない。全体会では、2校案で検討して、だめならば1校案に戻るということになった。
- (事務局発言) 平成30年次第では3校案もあり得ることならば、推計では、大きく増えることは望めない。平成15年度から平成20年度で約100名の生徒減少が予測される。現状でも適正規模を満たしていない面がある。
- 生徒数が少なくなるのならば、1校案の方がよいのではないか。
- (事務局発言) ベストではなくてもベターな選択で、2校案を選んだ、ととらえている。地域との絆づくり、適正な通学距離の確保という点から、2校にして再び1校に統合するのは考えにくい。
- 一度決めたことが15年から20年先に及ぶ、平成20年度での推計では短すぎる。区の方で把握していないのか。

- (事務局発言) 将来推計はあるが、通学区域と合致しないものでよければ示す。ただし、公立校へ進む子だけではないし、公立に進む子も何割が地元の区立を選ぶかは不明という点をご承知頂きたい。
- 2校案で考えていこうという全体会の了承がある。ある程度前に進めてはどうか。
- (事務局発言) (2校案説明)。
- 紅葉中に置くとすると、通学区域が広がるが、通学手段はどうか。
- 飛鳥中から紅葉中まで、歩いて30分程度かかった。
- (事務局発言) 位置について、紅葉中と滝中の位置とすると、距離としては滝中の方が近いと思われる。
- C案は案としては現実的ではない。
- 現在の学区域はそのままなのか。明治通りで分割するということは考えるのか。
- (事務局発言) この地区の望ましい学校の配置を決めたうえで、学区域について考えるという順序で考えたい。
- A案、B案、C案と書かれてしまえば、A案しかないのではないか。
- (事務局発言) もっとも適切だとする理由を言ってもらえるとありがたい。
- 単純な直線距離で測るとそうなる。一番遠くなるのが滝中なので、距離で考えると、紅葉中・飛鳥中が賢明ではないか。
- 長短は裏腹の関係、1)生徒数のバランス、2)通学距離、3)施設の設備、の3点について長短を考えてはどうか。
- 生徒の安全が大切だ。飛鳥中の周辺は道が狭い。1年生は荷物も多いので、交通事故の危険性を考えてはどうか。ある程度の距離が大事になるのではないか。
- 通学距離が一番大事だと思う。学区域・生徒数の問題は後で考えればいいことではないか。
- (事務局発言) 配置を考える上で、敷地も大きな点だが、通学環境の面も大きい。地元目から交通状況を考えて頂きたい。
- 紅葉中は、学区域の端にあるのが欠点といえば欠点。
- A案となると、滝中の子の中には紅葉中よりも飛鳥中の方が近い子が出る。選択制にして欲しいという意見は出ると思う。シミュレーションよりもバランスがとれるのではないか。
- 明治通り沿いに新たにマンションができる。平成20年度までに決めなくともいいのではないか。人口がかなり変わってくると思う。
- 滝中と紅葉中との統合となると、400名規模の学校になるが、遊び場がなくなるなどデメリットの方が多いのではないかと感じる。統合にどれだけのメリットがあるのか。
- 教員の数が増えれば、部活動が増やせる。1年生は部活に希望を持って入学してくるが、教員数が少ないと希望に添えない。教員数が増えると、校務分掌などの負担は減り、ゆとりを持って接することができる。生徒数が少ないと、全体的に活気がない感じがする。生徒数が増えると、目が行き届かなくなる面はあるが、活気が出る。子ども同士の切磋琢磨の機会を考えると、1学年5~6クラスはあった方がよいと思う。
- 現在の器は限られている、部活動が同時にできないのではないか。同じ部で補欠になるかもしれない、デメリットが多い。滝六小・池袋商業高の用地に広がれば、もっと良いのでは。

- 体育館の重層化などで、部活も可能と考える。
- 現在でもかなり私立中に進学している。学校の位置によっては、公立へ行くか私立へ行くかわかることも考えられるのではないか。
- 通学区域はあるが、指定校変更はどれくらいしているのか。
- (事務局発言) 指定校変更率は、中学校20%、小学校22%、微増傾向にあり、今後も同じだと考える。統合新校が素晴らしい施設だと流動化するかも知れないが、ほぼ2割前後で推移している。今後の選択制の動向については検討中だが、これ以上選択の幅を狭めることにはならないと考える。
- 施設によってはダイナミックに動くかもしれない。
- (傍聴者) 若い母親の選択基準は、まず生徒が多い方の学校を選んでいる。次に魅力ある学校、部活の内容など。数・部活・先生の努力、という順にお母さん方の考えが強い。
- (事務局発言) 検討シート・将来人口予測を送付する。

滝野川西地区教育環境整備協議会・幹事会(第5回)

■平成16年6月30日

■滝野川西地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第4回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校配置について
4. その他

■発言要旨■

- 平成35年度までの人口推計は参考になった。これは協議会へも示すのか。
- (事務局発言) 前回の幹事会で要望があったので用意した。
- 3校で現在700名くらい、平成35年度には500名くらい、12学級くらいになるだろう。
- 小学生がどんどん減っていく。中学校は5~6年遅れの傾向になる。3校合わせてもやっと適正規模。3校を1校にするのが理想的だが、現実的な土地がない。できるのならば考えるが、無理か。
- (事務局発言) 以前にお答えしたとおり、新たな敷地のあてはない。
- 滝野川中の敷地ではどうか。
- (事務局発言) かなり斜面が多い。狭くてもいいと考えるかどうか。中学校への要望として校庭の確保が大きい、厳しい部分があるとは考える。

- 地下とか、高層化とか、統合で空いた場所をグラウンドにするなど、イメージを変えてみては。私立ではグラウンドと校舎が離れているところもある。安全面を考えないといけないが、そうすれば部活動の場所も確保できるのではないかと。
- 体育館の重層化など、設計の工夫が必要になる。周囲が住宅地なので、日照権などの制約が出るかもしれない。
- (事務局発言) 幹事会として2校案で検討を進めるとの確認をしていたが、やはり1校案が望ましいとなれば議論をして頂きたい。多くの保護者に支持して頂ける現実的な案をご検討頂きたい。滝野川中の敷地の建築条件は調査する。建築費については、統合による跡地の売却も念頭に置かざるを得ない。
- 滝野川中の校庭は台東区の中学校と比較して狭いとは思わない。2校案で進めるとなると、紅葉中と飛鳥中の位置、1校案となると滝野川中の位置ではないか。もっと1校案・2校案を突き詰めてはどうか。建物のイメージを含めて議論を深めてはどうか。
- 人口推移を勘案するとしても、2校案で徹底的に考えてみてはどうか。そしてやはり1校案がよいとなれば徹底的に考えるのもいい。この地区の子どもたちのために良いものを提供したい。
- 平成35年度までの人口推計をもとにすると、2校案の結論が出たか疑問。あらためて全体会に聴いてみたい。
- (事務局発言) ご意見を聞くだけのために全体会を開催してはいない。検討事項の確認のために開いていたが、異なる方向で進めるならば、全体会を開催することになる。1校案の場所があればいいが、ない、というのが全体会での了解だった。人口動向はどまで見るのかは難しい問題だが、この人口推移を提示したとしても、場所があるのかとなると考える。
- これから建てるとなると、どれ位に出来るのか。
- (事務局発言) 中学校の改築は、それほど先の話になるとは考えていない。
- 地域の方の話では、できれば1校がいいが仕方なく2校でということだった。滝野川中の現在の校庭の広さでは無理だろう。地下・地上を使って、どれ位出来るものか。これがはっきりしないと、そこから先に進まなくなる。この地区の一番のネックは明治通り、高速道路だ。高架で遮断されてこれまでの状況と違ってきている。
- そもそも適正規模に欠けるという議論だったが、それからすると2校案では将来的に適正規模を割る可能性がある。
- (事務局発言) 特に3校の地区はそうなのだが、エリアの中で公立校である以上適正な通学距離という視点は外せない。結果として適正規模に満たなくてもそれはやむを得ない。2校案で課題が多ければ1校案に戻るとするのは全体会に了解されると考える。2校案の課題の整理が必要ではないか。
- 適正規模等審議会では、適正規模の確保は大きな意味があり、9学級～15学級を望んでいる。教員数を確保し、選択教科の充実を確保するためである。1校案を推さない、理想と違ってくるのではないかと。
- (事務局発言) 1校とすると、平成20年度の推計値で19学級、ピークはもう少し後になり、大きな規模になる。校地を確保できるかどうかの問題になってくる。学校設置基準は目安であり、都心区では満たしていないところが多い。この地区は1校にすると規模が大

きくなるジレンマがある。子どもの状況は流動的なので、これから建てるときには汎用性を考えて建てることを考えることになる。

- 適正規模を目指して検討して頂きたい。
- 何のために全体会で方向を決めたのか、話が進まない。2校案でマイナスが多ければ、1校案を考えてはどうか。2校案で考えるのもプロセスの一つであって、全体会での宿題を考えるべきではないか。
- (事務局発言) 2校案では課題が多すぎるのか、検討シートについて報告する。(検討シートの報告)
- 2校案ならば、I案がベターとなると思う。
- 議論の余地はあまりないのではないか。
- 将来的には小学校の統合もあり得るだろうから、それを含めて考えないと。
- (事務局発言) 小学校の土地を含めて、1校案を考えるということか。
- 現実的に1校案の土地はない。
- (事務局発言) 都立王子工業高の可能性はないと答えてきた。将来の再統合は全くない訳ではないが、適正な通学距離という視点は考えざるを得ない。今から何年先を見るかという点は、10年～20年が限度だろう。その点でも、汎用性のある施設づくりが考えられる。
- 滝野川中の土地でどれ位のものができののか示して頂きたい。例えば十条台小のプールのように崖線は利用できるのか。
- 地域の思惑があるのは分かるが、中学校のために、まずは2校案で考えて、有力案のプラスマイナスを検討してはどうか。将来の子どもにとって適正・安全か、考えて頂きたい。
- (事務局発言) 2校案だとI案というのが大方の意見と受け止めた。I案のメリット・デメリットを検討した結果、やはり1校案がいい、という意見が出るのであれば、再度考えることとしてはどうか。I案の検討シートを送付するので、提出して頂きたい。また、滝野川中の位置にどの程度建築できるのかは次回示す。

滝野川西地区教育環境整備協議会・幹事会(第6回)

■平成16年7月28日

■滝野川東地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第5回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校配置について
4. その他

■発言要旨■

- (事務局発言) (滝野川中学校校地の建築条件について、2校案のメリット・デメリットについて説明)
- 2校案について、メリット・デメリットを徹底的に確認して、デメリットが改善されれば、2校案でいくということによいのか。1校案も浮上しているが。
- (事務局発言) デメリットを超えていけるか、デメリットを承知しても上回るメリットがあるのかを検討頂きたい。解消されなければ、やはり1校案でいこうということになると考える。
- 出てきている点を1件1件確認していくしかない。他にあるなら出さないと、話が混乱する。
- (事務局発言) 滝野川中の建築条件の様に、2校案以外でもご要望があれば、今まで同様お受けする。デメリットを上から順に確認をして頂きたい。地理的に偏っている。次に通学区域は解体の方向でないと、という意見について、自由選択制については、教育委員会として検討中、将来的に導入されるかも知れないが、現状では予定はない。登下校時の交通安全については、大きな課題だが、2校にした場合の生徒たちの通学する道が分からない中で想定は出来ないが、今までの統合では、全てチェックしている。横断歩道・ガードレールの設置、それが出来ないところはせめて白線を引くなど、警察とともに対応している。
- 自由選択制は検討中とのことだが、学校ファミリー構想からすると自由選択制とは相反するのではないか。北区の新しい教育として学校ファミリー構想をやっている中で、自由選択制となったらどうなるか。仮に導入したとしても、学校ファミリー構想がなくなってしまう様な選択制にはしないだろう、そうでないと、学校ファミリー構想の意味がなくなるのではないか。23区で自由選択制をとらない3区のひとつだが、それについて堂々とやってはどうか。北区全体での自由選択ではなく、ブロックは残っていくのではないか。線引きはやはり2校ならばこれまで通りの学区域を引き継ぐとは思っていない。大きなエリアの中でどちらかを選ぶ型が良いのではないか。
- (事務局発言) 従来例では、統合校は統合年次にはフリーにしているが、北区では調整区域を設けていないので、通学区域がある限りは、どこかに線引きすることになる。自由選択制については、地域との絆づくり・学校ファミリーとの関係との議論になる。一方で、学校ファミリーがある程度構築出来れば、無理にしぼっておく必要はないという見方もある。
- 北区では、学区域の真ん中に建っている学校はまずない、一番極端なのが岩淵中。赤羽中と隣り合っているが、線路の向こう側からも生徒が来る。
- 平成20年度の想定では、飛鳥中が9学級、紅葉中と滝野川中併せて13学級、各学年3学級ずつだと多くの教員を置くことが出来ない。13学級位あれば、5教科以外でも専任の教師を置くことが出来る。昨年、9学級だったが、社会科が1名、あとは講師対応となり、サービスが低下する、やはりデメリットではないか。
- (事務局発言) 平成20年度の想定では、紅葉中+滝野川中13学級のうち、1学級は心障学級。9学級では少ないし、12学級でも果たしてどうかということはある。
- 現在9学級だが、決して大きくはない。個人的には少ないと思うが、現実、北区でその規模を確保出来ているかということ、そのような学校は少ない。最低9学級を維持したいと適

正規模等審議会ですべてきた。子どもたちのニーズに沿うには1つの教科で最低2つの選択科目、5教科で10名の教員が必要。3年生で5教科10コース10名の教員として、1・2年生で5名の教員、合計20名の教員が必要。各学年5学級では23名の教員が配置される、例えば体育は男女別に教員が必要になるので、余っている状況ではない。15学級はどうしてもおさえない学級規模で、学級数が少ないと、子どもたちのニーズに応えられない。

- 少人数・TTで配置はしているが、焼け石に水の状態。子どもたちのニーズに応えるための独自の講師を配置するためのお金がない。小学校では区独自の非常勤講師を導入したが、そうするとともクーラーまで回らなくなる。
- クラス数だけを見ると、9学級では統合する意味がない。
- この点は最後まで残る問題だと思う。
- (事務局発言) 現状、過員配置があるが、構造改革特区の中で教員独自採用をという話はある。適正規模は、9~15学級あるいは18学級までという意見もあるが、それ以上では多いと考える。現状6学級が5校あり、それ以下も3校ある状況。各校非常勤講師を配置してやりくりしている。その中で適正規模をどう確保するかがこの協議会の動機である。
- 今の教育のニーズは個性を生かす教育。適正規模でないと、子どものためにならない。
- この点ではきりが無い。統合によりある程度の規模を確保しないと。思い入れはあっても、子どもたちのために何を提供出来るかを考えないと出来ない。
- 2校案でやむをえず話をしているが、その点はある。
- 他区に比べれば、北区は時間はかかるが、順を踏まえながらやっていると思う。お互いに共通する部分を探さないと。この点は地元・保護者に本気になって話をしてもらいたい。
- 中学校の統合といっても、これからの小学生、今の小学校低学年が入る頃の時期だろう。その保護者の意見を聞かなければと思うし、確かに紅葉中も先生が少なくなったと思う。先生の数を確保するために、この数が必要という点から話をしてはどうか。
- 今の中学生は卒業するし、かといってこの問題が小学校の保護者の意識に入っていない。
- 小学生の保護者には分からないと思う。昔の中学校のイメージそのままだと思う。
- 小学生の保護者はまだ深刻ではないし、他人事だと思う。本当に聴いて欲しい小学生の保護者は、その時になって初めて気づくのではないか。
- 工事となると、仮設校舎で授業となるのか。
- 2校を1校にするならば、どちらかの校舎に通うことになるだろう。それまでは少し不便だが、仮設校舎なしでできることが、2校を1校にする利点。
- 売却による資金稼ぎも考えなくては。
- (事務局発言) 教員・生徒数が中途半端という点は以前からでていたが、2校案では統合しない学校は適正規模の確保が難しい。また、統合のメリットが受けられないという点もある。ただし、2校の統合ならば建築工事中に仮校舎の必要がない、というメリットは検討シートに書かせて頂く。資金についても、学校跡地の売却も念頭に入れざるをえない。以上の点は、次回以降も話し合っていかなければならないと思う。
- 生徒の安全については、明治通りで学区を分けたとしても縦に長く、安全確保という点では考えていけないといけな

- 幹線道路で学区を分ける京都方式は、安全確保のためには一理あると思う。

滝野川西地区教育環境整備協議会・幹事会(第7回)

■平成16年10月29日

■滝野川西地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第6回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校配置について
4. その他

■発言要旨■

- 中学校の数は少なくなっていくが、PTAを集めて説明会するなどして、統合がデメリットだと捉えられないようにしたい。良いことになるというイメージを。統廃合にはデメリットのイメージがある。
- (事務局発言) 積極的なとらえ方として適正配置を進めたいと考えている。新しい器としての改築を念頭に置かざるを得ない。
- 2校案よりも1校案の方がいいのではないか。生徒数が増える見込みがないし、また人数が少なくなると1校になるのではないか。
- (事務局発言) その議論の繰り返しで現在まで来ている。1校の適切な場所が見いだせない、難しいとなると、次善の策として2校案で進めざるを得ないというのが今までの経過ととらえている。
- 外語大跡地の話はないのか。
- 防災公園などになる予定。
- 既に統合の決まっている地区は他にもあるのか。
- (事務局発言) 赤羽西地区において赤羽台中と北中が平成18年4月に統合の方向。
- 校舎はどうなっているか。
- (事務局発言) 赤羽台中と北中の統合校は北中の位置になるが、改築にするか改造にするかは未決定、当面赤羽台中校舎を利用する。王子中と桜田中の統合校は、王子中の位置に新築する。
- 名称はどうか。
- (事務局発言) 王子中と桜田中の統合校は、いくつかの案から絞り込んでいる段階である。新しい名前か、どちらかの名前かを含めて調整している。

- 同じ議論の繰り返しになっていると思う。場所がないという点はクリアできないだろう。PTA滝野川地区研修会では、小学校も含めて考えてはどうかという質問もあったが。
- (事務局発言) 滝野川南地区では小学校の場所も含めて議論することとした。滝野川西地区では議論が拡散して、混乱することを危惧している。ステップを踏んで、全体会で2校案は了承されているので、場所としてどこが望ましいのかを検討して、ではどういった適正配置の進め方をするか。小学校を含めて考えるのか、混乱を避けるのか、本日は、できるならばどこに置くのが望ましいということまで進むことを願っている。1校案は土地の問題があり、2校案で議論を詰めようという経過になっているが、他の地区でも見合う土地がないため2校案で考えざるを得ないところはある。
- 教育委員会で何年後に何校を改築するという話が出ていたが、数が示されているから早い者勝ち、あとは地域が乗るかどうか、我々が乗っかるかどうかということになるのか。
- (事務局発言) 基本計画素案では、来年度から10年間で9校を改築するとしている。具体的な校名は出していない。基本的に中学校の改築、その中でも統合校を優先するとしている。9校は早い者順ではないが、話のまとまらないところを待つわけにはいかないのも現実。
- 場所は位置もあるが広さもある。滝野川中では少し狭いという話があったが、そうすると紅葉中となるか。
- (事務局発言) どうしても敷地の広さ・通学距離から、紅葉中と飛鳥中の位置となるのが自然だと感じる。メリットデメリットについてシミュレーションを示した。ただ、これは、合意形成されたものではない。まず、場所について合意形成ができるかどうかを検討頂きたい。
- 今日出席者が少ないので確認できる状況ではないのではないのか。位置は紅葉中と飛鳥中としても、飛鳥中は埋蔵文化財の関係でいじれないのではないのか。
- 場所のみを考え、紅葉中・飛鳥中だろうとすると、飛鳥中も新校としてスタートしてかまわれないが、校舎がいじれないならば、建て替えによる恩恵を得られないのではないのか。
- (事務局発言) 想定として、大規模改修しか手段がないかもしれない。地下は掘れないので、フレームを残して改修ということになるかもしれない。
- 飛鳥中が新校になるとするとそれに見合ったものは可能なのか。
- (事務局発言) 文化財保護法の縛りは建築基準法とは別なので、建築基準法上どこまで出来るか。また、敷地は全部文化財に指定されている。全体の半分、校舎のある方は手を入れられない、残り半分、校庭・プールのある方は遺跡調査をすれば可能である。
- 容積としては変わらないということか。生徒の変動に対応できるかどうか。
- 新しい中学校校舎の標準を考えているとのことだが、それはまだか。
- (事務局発言) 基本的には「あり方検討会」の指針が出ているが、具体的な標準バージョンを定めている段階。
- 例えば滝野川中が明治通りで分けられるとすると、全体が統合となるから、すべて新しくなるという考えはあるか。
- (事務局発言) ちなみに赤羽東地区では、神谷中・赤羽中・岩淵中の3校の幕を閉じて、新たに2校を設置するという考え方をとっている。
- そういう考え方は、メリットとしては住民感情には説明しやすい。不公平感が出ると感情的なものが残るが、その考えにはなるほどというところがある。

- 滝野川中と紅葉中が統合して、飛鳥中はそのままとすると、遠くても新校に行くかも知れず、不公平感が残る。全部が同じ幕を引き、幕を開けるというのも考え方だ。
- (事務局発言) 一度に改築はできないので、時期のずれはでる。再配置したときに期待感が出る。3校を2校に再配置したとしても、ある学校だけがなくなるという感情はぬぐえない。しかし、3校を閉じて2校で行こうではないか、と感情は別にしていかなければならない。
- 10年で9校の改築は8地区全てにはならないのではないか。
- (事務局発言) 基本計画素案に示した10年間で9校の改築というのは、財源見合いである。区の認識として全部の学校が老朽化しているが、計画化しにくいところがある。幹線道路で学区を分けるという意見もあるが、滝野川第二小も明治通りをはさんで通っている子もいる。必ずしも切れないし、町会自治会を分断する線引きになるのもどうかと思う。
- 町会が分かれるということでは、入学式が滝野川第二小・滝野川第三小と分かれている。中学校もとなると難しい。
- いくら集まっても話がまとまらない。次回決めるとして集まったらどうか。我々の感情としてはなくすのは忍びないが、皆さん多く出席できる回に決めてはどうか。
- 新しい教育内容や中学生の体格にとって、このまま古い校舎でいいのか。新しい教育のできる環境を作ってはどうかと思うが。
- 中学生は学校にいる時間が長い、その中でよくがんばっていると思う。暑く寒くの中で個性を磨けというのも難しいと思う。
- 生徒が暮らすには古い校舎のままではまずいだろう。名前がどうのこうのではなく、3年間をどう子供が過ごすのか考えてはどうか。
- 以前、子供のためにどうしたらいいかを話し合ったが、1年間の話し合いの中にそのかけらもない。どうしたら子供のためになるかを考える余裕がない。
- (事務局発言) 協議会やPTAの思いのみで学校を作るのは困難。卒業生・地域の方は必ずしも事情をわかっていないのではなく変化に抵抗がある。賛成するのは難しくても、やむを得ないかと思ってもらえるかというのがハードル。着実に進んで行きたい。3校を閉校して2校案でとは言っても、滝野川中OBから声は出る、これは飛鳥中・紅葉中とも同じ。しかし、どこかで踏み込まないと進まない。どの地区でも苦勞している。次回に幹事の日程を押さえて踏み込もうと幹事会で合意して、さらに進んで行こうとなれば、実情は訴えていきたい。
- 近隣の私立中学校でも桜ヶ丘・武蔵野・淑徳・聖学院、中高だが滝野川中よりも小さい。器は大きければいいが、やはり中身の問題であり、中身のいい学校に行かせたい。残念ながら2校案では適正規模に欠ける、それでも2校案で進むのが理解できない。
- (事務局発言) 適正規模という点では誤解があるかと思う。1学年3～5学級が適正規模だが、紅葉中・滝野川中では飛鳥中が適正規模に欠けるのではないかという話はあった。2校案での適正規模確保の難しさはあるが、統合により適正規模は何とか維持できると考えている。中身については教員の資質向上や、地域の協力などは模索していかなければならない。各地区とも校地は広いに越したことはないという話も事実。
- 狭いよりは広いほうが色々出来る。広いほうが中学校にとってはいいだろう。
- 中学生にとって、部活の意義は大きい。グラウンドは大きい方がいい。

- 広いに越したことはないが、部活は内容を充実させたい。その広さで出来る範囲で何とかなる。
- (事務局発言) グラウンドの広さではないということは理解できる。しかし、他地区では、中学校にとってグラウンドの狭いところに移転することは受け入れられないという話があった。
- 新町中や田端中はグラウンドが本当に狭いが、余り狭いと本来の中学校の姿ではないのではないか。条件がそろえばいいというわけではないが。
- (事務局発言) 協議会・幹事会で結論が出ないまま年度末ということでもいいのか。2校では将来のためにならないからどうしても1校でいくのか、又は、全体会で確認されたように次善の策として2校案で進み、望ましい配置場所を決めていくのか、次回に再度確認頂きたい。

滝野川西地区教育環境整備協議会・幹事会(第8回)

■平成16年10月29日

■滝野川西地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第8回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校配置について
4. その他

■発言要旨■

- 滝野川西部自治連合会では、生徒数は10年経っても余り減らないのではないかと。地域の感情としてもこのまま3校にしておいて、生徒数が半分くらいになって1校にせざるを得ない時に労力を使ったほうがいいのかという意見になった。
- それは生徒のことを考えてのことか。
- 10年後でも紅葉中では30名くらいの減少というシミュレーションだった。また、JR宿舎が出来ると増えるのではないかと話もあった。
- (事務局発言) JR宿舎の規模では大きく影響されないと申し上げている。
- 生徒の教育環境・設備を考えてのことか、地元のことを考えてのことか。
- 生徒数が余り減らないのに、学校を減らすことはないのではないかとのことだった。
- 紅葉中・滝野川中は余り減らないが、飛鳥中の減少がかなりのものでは。
- (事務局発言) 現在既に適正規模を下回っている学校がある。事務局としてはこの地域全体の中で何らかの適正配置が必要だろうと考えている。滝野川西部自治連合会には

再度説明に参りたい。2校案だけではどうにも前進しないのであれば、1校案・2校案でそれぞれの望ましい配置場所を考えていただきたい。

- 始めは外語大跡地がいい、1校案がいいということで、それがだめで、では2校案ということになったのではないか。
- (事務局発言) 1校案が捨てきれないということであれば、それについても考えたほうがいいのか。このままでは議論が深まらないことを懸念している。
- 改築時期に来ているということも見逃せない。高い見地からの議論をお願いしたい。
- 1校案は無理ではないか。昔の学校は紅葉中と飛鳥中だった。滝野川中の地区に説明していかないといけないのではないか。町会・自治会の会長や歴代のPTA会長などに説明して納得していただかないと、地域では滝野川中がなくなると広まっている、小学校5・6年生の保護者から話が広まっている。いつまでも引きずっているとまずいのではないか。
- 3校から2校になる際の校名は出ていない。
- 地域を考えたら、紅葉中と飛鳥中はなくならないだろう、やはり滝野川中という形になるだろうということでは。
- (事務局発言) 2校案のメリット・デメリットを出してきた訳だが、位置についての議論の前に、やはり2校案で進もうという再確認をしていただきたい。
- 2校案で進めてよろしいか。
- 2校案という配置場所の結論が見えている検討なら、これだけの回数をやる必要はなかった。今後の中学校を考えるということで、もっとダイナミックな話をする場ではないかと思う。中学生は学校にいる時間が長いので、立派な校舎で学ばせたいと思うし、飛鳥中のように建て替えもままならない所もあり、やはり1校案も考えていただきたい。
- (事務局発言) 適正配置は地域にとって大きな問題である。望ましい学校数、次にその配置とステップを踏まないと地域に納得いただけない。時間はかかるが、一定の方向を出すには必要な手順かと思う。具体的な配置が見えてこない、という学校のあり方なのか、漠然として進まないというのが他地区の実態である。1校案を、というご意見があったので、両方考えるということでもよろしいか。本来ならば全体会に諮る事項かと思うが、議論が深まっていないので、併せて検討していただければと思う。議論を深めるためにも、2校案と1校案を並列で行くのか確認をお願いしたい。
- 飛鳥中は改築できるのか。
- (事務局発言) 文化財との関係で、地表面から掘ることは出来ない。どういうやり方が出来るのか充分考えなければならぬが、例えば、基礎部分は手をつけずに地上部分を改修するなどの方法が考えられる。
- 始めは、どこの学校がなくなるという話ではなかったのではないか。校舎がどちらかになると理解すれば、もっと議論が進むのではないか。
- 場所については、民地を買収して拡張というのが難しいという話。学校名ではなくて、場所ということではないか。
- 実際にその点が飛躍してしまっている。本当はこの学校を残すとか何とかの話はしていない。3校ある中学校を2校にしようか、どの場所に配置しようかということをお話している。

- (事務局発言) 2校案または1校案の配置場所の話の繰り返しであったととらえている。2校案の配置場所に議論が進まない。1校案の場所として醸造試験所跡地や滝野川中の崖地利用という意見には答えてきた。
- 1校案では滝野川中に校舎、紅葉小に校庭という案も出したが。
- (事務局発言) 校舎と校庭が離れていて、授業時間に対応できるか。
- 体育は現状の校庭で行い、部活を紅葉小で、ということでない現実的ではない。
- (事務局発言) まとまった敷地を学校の放課後だけ利用するという話に多くの賛同が得られるだろうか。
- 平成20年のシミュレーションからすると、2校を配置したときには人数的には半々になるだろう、3学級ずつの学校が2校になると思う。4～6学級が理想的という校長の意見もあり、それは1校案ならばクリアする。自転車通学やスクールバスなどの手段はどうか。
- (事務局発言) 自転車通学は、23区内では認めているところはない。バスは難しい。
- 保護者は自分のところから遠くなったということで他へ動くのではないか。
- トータルで考えると、生徒の安全のためには近いほどいいだろう。1校案では、地区の真ん中でないと難しいのではないか。
- 1校案ならば滝野川中の場所、2校案ならば紅葉中・飛鳥中の場所となるだろう。その前提に立って考えてはどうか。1校案の可能性はあるのではないか、無理ですね、で終わっている。
- 1校案ならば滝野川中の場所というつもりはない。魅力ある学校、先生の数の充実した規模を作りたい。少しでもいい場所を探そうではないか。たとえば紅葉中は隣に滝野川第六小、池袋商高跡がある。
- 今までの議論で、子どもたちが一番勉強しやすい場所として、外語大跡や王子工業高、真ん中なら滝野川中ではどうか、しかし高層化も難しい、ということで2校案になったのではないか。
- 規模的には3学級やむなしとなるが、もう少し議論があってもいいのでは。距離は近いにこしたことはないが、私立への進学や越境通学など、ニーズは多様化している。
- 今より遠くなれば他区であっても近いところになってしまうということがある。ちょっとした状況の違いで流れは変わる。
- 正当な理由で指定校変更する子が20%ということは、80%は近いところに行かせるということで、距離はおろそかに出来ない要素である。
- 3校を統合しても生徒数が増えないということになりかねない。
- いい場所に1校としても無理ということか。理想を追って進まない、その間に他の地区では新しい学校が出来る、それでいいのか。
- (事務局発言) 2校案ならば紅葉中と飛鳥中の場所ということは自然な流れということ念頭においている。1校案については今までも検討してきたが、新たな案として他の場所でも挙げていただきたい。次回は、2校案のメリット・デメリットについて精査していただき、1校案について、距離のデメリットを克服できる配置場所についてご議論いただきたい。

滝野川西地区教育環境整備協議会・幹事会(第9回)

■平成17年1月20日

■滝野川西地域振興室会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第8回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校配置について
4. その他

■発言要旨■

- (事務局発言) 2校案については、従来から示しているメリット・デメリットについて再度示した。1校案については、どのような案があるのかを示した。6つの案がある。本日はどちらかの案に絞るのではなく、2校案・1校案での適切な場所をまとめていただきたい。(1校案の配置説明)(経過報告案の説明)
- 確認だが、1校案でも2校案でも学校名は新しくなるということで良いか。
- (事務局発言) 統合ルールでは、原則は新校名であり、関係者の合意のもとに従来の校名を使用できる。まず2校案について、従来から出ていた意見を整理してあるが、どうか。
- 2校案ならば、この意見しかないだろう。最終的には2校案が現実的として進んでいくしかないのではないかと。9回の回数を重ねて意見は出尽くしているのではないかと。地域として、通学区域をどう考えるのか、小学校から中学校を指定するのは難しいだろう。高速道路を挟んでどちらかとするか、きちんと決めてもらいたい。
- (事務局発言) 現実的なところで2校案を幹事会の方向性として進めてはどうかという意見と受け止める。
- 2校案とすると、飛鳥中と紅葉中の位置とのことだが、例えば上中里1丁目では、1校案では田端中に流れるだろう。紅葉中の地元からは板橋区に流れるかもしれない。単純に通学に便利ということを見ると、2校案しかないのではないかと。
- 1校案を見る限り無理なところがあるだろう。特に小学校の統合を前提とするのはいかがか。難点があるので2校案でどうか。例えば学区域を明治通りで2つに分けるとか。
- 1校案と2校案の話になっているが。高速道路を境にしたとしたら、地元ではどうか。
- 自治会も高速道路で分断されている。現在でも大変な面がある。
- 自由選択に任せるのも問題がある。
- 学区域の変更は、統合のときに教育委員会としてどうするのか。
- 町会・自治会の団結があるので、分かれてしまうのは大変だ。
- (事務局発言) 適正配置の実施にあたっては、改めて通学区域を教育委員会として指定することもある。通学区域変更については、町会・自治会と相談しながら決めなければならない事項ととらえている。

- ここまで話が進むと、校長としては話づらいものがある。現実として、1校案では、通学距離がどこから見ても変わる。その環境の中で、保護者の発想としては、現在でもあることだが、たとえ区が違って近い学校へ通おうとする動きが出るだろう。結果として予想よりも生徒数が集まらない可能性がある。地域の環境や生活圏から、2校案が妥当だろう。地元の意識としては、自治会や神社のこともある。それも要素となろう。それらを勘案して通学区域を設定して、指定校変更基準も弾力的に設定すると、地域の気持ちが収まっていくのではないか。
- 範囲が余りに広く、1校案は難しいという気持ちはある。2校にして魅力ある学校が出来るかが大切であり、子どもたちが通いたい学校を作って欲しい。距離も重要だが、過去、サッカー部がないということで私立にゴソツと持っていかれたことがあった。私立がかなわないと言う様な、グラウンドなどの絶対的なハードの部分で、他にない様な学校が出来たらいい。1校案の案として、紅葉中と滝野川第六小の敷地を活用して、広いグラウンドで大きな規模で出来るのではないかと、飛鳥中からも通いたいというものが出来るかな、と出した。
- 校名のことが結構重要なのではないかと思うが、これから通う子どもにとっては大きな意味ではない。場所が今までの学校の所在地になるとして、その場所に学校として存在するとしても、それが飛鳥中であるかは別の問題だが、その点が理解されていないと感じる。
- 飛鳥中と紅葉中が残って滝野川中がなくなるという単純なことではないにも関わらず、その点が理解されていない。現在の3校を新たな2校にするということをはっきり出来ると良い。
- (事務局発言) まだはっきりした方向性が出ない中で、仮定の話はしにくい。一定の方向性が見出せたのち、教育委員会として説明をする。校名については統合ルールでは統合校は原則として新しい名前にする。ただ、学校は地域の思いの拠りどころであり、地域に見守られて育まれることが公立校の良いところである。地域・卒業生の理解を得られるように出来る限り努力しなければならない。例えば、王子ブロックでは中学校名は新しいものとなり、小学校名は従来の校名を引き継ぐこととなった。校名は卒業生・地元に関心があるデリケートな問題であり、行政で一律に、ではなく、地元の思いを大事にしていきたいということで色々なケースが出てきている。また、学区域を変更する際は、町会・自治会に相談しながら変更している。校名については、統合に向けての関係者によるプロジェクトチームの中で具体的な話をしていく。
- 例えば、飛鳥中の位置とするとしても、伝わる時には飛鳥中が残らなくなってしまふ。その誤解を解消するのにつかう無駄な努力をなくしたい。
- 1校案では、小学校の統合が前提になっている様だが、それはどうか。3校を2校に再配置するのであれば、2校とも新校名となるのが公平ではないか。
- 今までの議論の中では、残念ながら地図上の配置・建物・広さなど、生徒たちのための魅力ある学校という視点が欠けているのではないかと。面積の確保、部活動の選択肢の提供、1校の生徒数を増やすことが目標ととらえている。2校になったとして、教員数、部活動の数が望ましい数になるのかが疑問。2校案になったとき、3校の合計数が2校に行くとは思えない。滝野川中近辺からは距離が遠くなり、王子駅も近いので私立を選択する可能性がある。子どもたちにとって望ましいものになるかどうか。

- (事務局発言) 幹事の皆様には、何回も同じ議論の繰り返しになったと思われると思う。2校案で適正規模を確保できるのかという意見は、今までにも出てきたが、現状のままではまずい、1校案が理想的だが、現実的ではない。次善の策として2校に、というのが大方の議論であったと思う。『この地区の中学校の数として2校が望ましい。位置については紅葉中の位置と飛鳥中の位置が望ましいであろうという意見が大多数を占めたが、望ましい学校数として1校を目指すべきであろうという意見もあった』ということでどうか。
- これで全体会に諮りたいが良いか。
- (意見なし)
- 次回全体会を開催する。

滝野川西地区教育環境整備協議会(第3回)

■平成17年2月28日

■滝野川西ふれあい館多目的室

■次第■

1. あいさつ
2. 検討経過について
3. 協議会検討報告(案)について
4. その他

■発言要旨■

- 第2回全体会以降、6回の幹事会を開催してきた。本日その経過を含めて協議会のまとめとする。
- (事務局発言) (検討経過について)(協議会方針案について)
- 何かご意見はありますか。
- 幹事会を9回開いて、この地区では結果として2校案が望ましい、現実的に飛鳥中の位置と紅葉中の位置ということか。
- (事務局発言) 協議会方針案(1)はそのとおり。(2)は1校のほうがより望ましいという意見である。この地区のまとめとしては、2校案が現実的であるが、1校案も否定するものではないというまとめとなった。
もし全体会で了承されれば、協議会方針案の案の字を取り、最終的な報告文とする。その後、児童・生徒を通して各保護者あて配布、町会自治会へは回覧を依頼したい。この協議会は今回をもって一応の括りとし、しばらく行政内部での検討の時間を頂く。
- 他にご意見はありませんか。ご異議ありませんか。
- (異議なし)

- これで方針と決定します。
- (事務局発言) これで議会に報告する。この地区は2校案が現実的であるが、1校案も根強くあり、併記することとなった。統合の実施時期については議論に至らず、その旨を記載する。

この後、しばらく時間を頂き、各地区の協議会のまとめを踏まえて、北区全体を見渡した、北区全体の案を検討する。平成17年度中には何らかの方向を提案したい。この協議会では学校の適正配置を含めた教育環境のあり方という地域にとって重い課題を投げかけたと考えている。具体的な話になるとそれぞれの思いもあり、進行が難しいところとなった。私どもはこのような協議会を北区全体で8地区開催し、統合の実施時期などまで話が進んだのが4地区、残りはこの地区と同様な状況である。